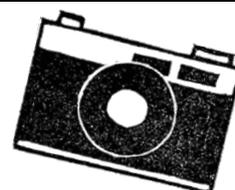


# 令和元(2019)年度 英国派遣交流事業報告書



2019年11月15日(金)~11月22日(金)

北谷町教育委員会

# CONTENTS

 教育長あいさつ	P1
 令和元年度英国派遣交流事業経過報告	P3
 令和元年度北谷町英国派遣交流事業実施要項等	P4
 第19回北谷町中学生英語スピーチコンテスト発表文	P9
 令和元年度北谷町英国派遣交流及び視察研修について	P17
 英国派遣団報告書	
生徒 北谷中学校 2年 大嶺 聖人	P20
〃 北谷中学校 3年 親川 美月	P21
〃 北谷中学校 3年 末吉 裕喜	P23
〃 北谷中学校 3年 末吉 優衣	P25
〃 北谷中学校 3年 花城 一華	P27
〃 桑江中学校 3年 安里 駿佑	P29
〃 桑江中学校 3年 奥間 未夕	P31
〃 桑江中学校 3年 傳道 有	P33
引率 北谷中学校 教諭 伊佐 和香乃	P35
引率 桑江中学校 教諭 仲松 友美	P40
 英国派遣交流写真集 	P47
 令和元年度英国訪問団受入れ【交流の様子】 	P56



## 教育長あいさつ

北谷町教育委員会

教育長 津嘉山 信行

北谷町英国派遣交流事業は、2001年から始まり、今年で19回目を迎えました。これまで、交流団をイギリス西部のディーン・マグナ・スクールへ派遣し、授業参加やホームステイを通じた交流を深めてきました。今年度の派遣においても、伝統的なイギリスの建造物や環境のすばらしさ、ホームステイでの温かい受け入れ、ディーン・マグナ・スクールの生徒が熱心に授業を受ける態度に感銘を受け、気持ちがあれば言葉の壁は乗り越えられることや、自分の意見をはっきり言うことの大切さ、更なる英語学習に対する意欲や海外留学の決意、将来は英語を使って人の役に立つ仕事に就きたいと夢を語る生徒もおり、多くの感動と新たな夢や希望が芽生えたことが伺えました。

北谷町教育委員会では、このような国際交流事業を通して、異文化理解や相互理解を促進し、異なる文化を持つ人々と協調して生きる資質や能力を育むとともに、これからの国際社会を担う児童生徒にとって国際共通語としての英語を駆使する能力は重要な基礎的能力であることから、英国へ派遣する生徒の選考として「中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト」を開催しており、2019年度からは学校推薦枠も追加し町立中学生全体の英語力の向上を図っています。小学校段階からの国際理解教育を推進し、中学校への学びの連続性を踏まえつつ、コミュニケーション手段としての実践的英語力の育成に努め、今後もより一層充実した国際交流の在り方と英語教育を推進し、国際化に対応する人材の育成に励んでいく所存です。

結びになりますが、今年度も北谷町の派遣団を温かく迎えてくださったディーン・マグナ・スクールの校長先生はじめ、ご尽力いただいた先生方、生徒及び保護者の皆様に、心から感謝申し上げます、私の挨拶といたします。

## Acknowledgement

It has been 19 years since the British Delegation Program started in 2001. Since that time, the Chatan Board of Education has established a very successful international link with Dene Magna School in Western England. The students of Dene Magna and Chatan have fostered the intercultural understanding and cross-cultural communication through homestays, attending the host students' classes, and introducing aspects of their own culture. The experiences have made a very positive impact on Chatan students, and have inspired them to think more globally in the future. They were overwhelmed by England's historical buildings, natural environment, and warm welcomes from host families, and also they were impressed by the decent attitude of Dene Magna's students and staff in classes. Many of them talked about both similarities and differences between society in Japan and in England, and the importance of love or mind to communicate.

Nowadays, English communication has become a very important skill as globalization continues to accelerate. Chatan Board of Education aims to develop a positive attitude for communicating in English, as well as intercultural understanding through such programs and the annual English Speech & Conversation Contest. By adding a school recommendation system, more students now have a chance to visit UK. We will continue to promote English education to raise students' English skills as a whole.

In conclusion, I would like to express my heartfelt appreciation to Dene Magna Headmaster, Mr. Stephen Brady, Global Education Consultancy Ms. Harry, Mr. Oliver and the teachers, students, and parents of Dene Magna School for their support and the warm welcome. I look forward to ever growing friendship for many more years to come.

Nobuyuki Tsukayama

# 令和元年度 英国派遣交流事業経過報告

## 1 学校長推薦による派遣者の選出までの取り組み

・英作文提出、面接、校内オーディション等により各中学校男女各1名を決定

## 2 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストまでの取り組み

8月26日(月) カンバセーションに関するルール確認と練習

8月30日(金) 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト実施

## 3 英国派遣までの取り組み

10月2日(水) 英国派遣事前学習会①

- ・今後の日程調整
- ・訪問中の日程に関する説明

10月8日(火) 英国派遣保護者説明会

- ・英国訪問の心得等の説明会(生徒・保護者)
- ・訪問中の日程に関する説明

10月9日(水) 英国派遣事前学習会②

- ・ホストファミリーへの自己紹介文作成
- ・現地での学校・文化紹介発表準備

10月16日(水) 英国派遣事前学習会③

- ・北谷町の歴史、インディアンオーク号についての研修

10月23日(水) 英国派遣事前学習会④

- ・日常英会話の学習
- ・現地での学校・文化紹介発表準備

10月30日(水) 英国派遣事前学習会⑤

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

11月6日(水) 英国派遣事前学習会⑥

- ・現地での学校・文化紹介発表準備

11月8日(金) **出発式：町役場1階 レセプションホール**

最終確認(訪問スケジュール、持ち物、保険証券の確認等)

11月15日(金) ○出発 那覇空港

11月22日(金) ○帰沖 那覇空港

12月5日(木) **英国派遣交流報告会：町役場1階 レセプションホール**

# 令和元年度北谷町英国派遣交流事業実施要項

令和元年北谷町英国派遣交流事業を次のとおり実施する。

## 1 目的

次代を担う中学生を英国に派遣し、異文化及び異言語を体験することで、国際感覚を養うとともに国際理解を深めさせ、もって将来、本町の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

## 2 北谷町英国派遣交流事業の概要

### (1) 事前学習

派遣生に派遣事業の意義を十分に理解させ、学習意欲を高めるとともに、派遣者として必要な教養と国際的な視野を培い、さらに派遣者相互の人間関係の円滑化を図る。

### (2) 現地学習

現地の学校での授業への参加、ホームステイ、史跡の見学等を通して、現地の教育、文化、歴史等の学習を行うとともに、現地の学校の生徒との交流を通して見聞を広める。

### (3) 事後学習

現地学習の報告を行い、派遣終了後も体験を活かして地域や学校において活発に活動する。

## 3 派遣期間

令和元年11月15日（金）～11月22日（金）

## 4 派遣事業の日程

後日「令和元年北谷町英国派遣交流事業日程表」にて示す。

## 5 派遣場所

派遣先は、英国のディーン・マグナ・スクール及びその近郊とする。

## 6 派遣者の資格要件

派遣者は、次の資格要件を全て満たすこと。

- (1) 北谷町立中学校に在学している者
- (2) 家庭で英語を母国語として使用していない者
- (3) 通算1年以上又は継続して6箇月以上、英語圏生活経験者（就学前の期間を除く。）及びこれに類似する経験を有しない者
- (4) 北谷町の歴史及び文化を学び、それを海外の人々に伝えようとする主体的な意欲を持っている者
- (5) 町が実施する国際交流事業への参加又は協力等により、本町の発展に寄与する意欲がある者

- (6) 心身ともに健康で、海外における所定の期間の学習及び生活に適応できる者
- (7) 教育委員会が実施するハワイ短期留学派遣事業又は他市町村のホームステイ派遣事業等に参加したことがない者
- (8) 在学する学校長の推薦及び保護者の承認が得られる者

## 7 派遣人員等

北谷町立中学校に在学している生徒 8名

## 8 選考及び派遣者の決定

- (1) 4名を、各学校長が各学校で開催した選考会により推薦する男子1名、女子1名とする。
- (2) 4名を、各学校で開催した選考会で選ばれた各5名の学校代表者の中から、令和元年8月30日(金)に行われる北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテストにより決定する。

## 9 引率者

- (1) 引率者は、派遣者が在学している学校の教諭2名で、学校長の推薦による者とする。
- (2) 引率者の役割は、派遣生徒の学習等の補助及び健康管理とする。
- (3) 旅程中の生徒の危機管理責任者として、急な体調不良者への対応を現地交流校担当者と連携して行う。
- (4) ディーン・マグナ・スクールにおける授業参観を通して、教材、教具（ICT機器等を含む）、生徒の反応や変容の様子、指導形態等について観察するとともに、現地担当者等と積極的に交流することにより英国の教育方法を学び、その成果について報告書を作成する。
- (5) 英国訪問団受入時の交流について、現地担当者と交流方法や内容について意見交換する等の調整を行う。
- (6) 帰国後に、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取組に資すること。

## 10 経費の支給等

- (1) 派遣者として決定された者の経費（航空賃、車賃、宿泊費、日当（引率者のみ）、支度料、その他教育長が必要と認める経費）は町が支給するものとし、支払方法は、北谷町会計規則(平成5年北谷町規則第19号)、北谷町職員の旅費に関する条例（平成4年北谷町条例第1号）及び国家公務員等の旅費に関する法律（昭和25年法律第114号）の定めによるところによる。なお、教育長が必要と認めたときは、町は派遣者等への支給に代えて、旅行社等へ直接支払うことができる。

## 11 派遣事業の報告

派遣事業終了後、派遣者は、派遣報告書を教育長に提出するものとし、英国派遣交流報告会にて発表する。

# 第19回北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト開催要項

## 1 趣旨

今後の国際社会に対応するために、将来を担う児童生徒が積極的に世界の人々と交流ができる資質や能力の基礎を培うことが求められる。本町の人材育成の視点から、中学生の英語スピーチコンテスト等を開催し、町内中学生全体の英語力のアップと実践的コミュニケーション能力の向上を図る。

## 2 主催 北谷町教育委員会

## 3 日時 令和元年 8 月 30 日(金) 午後 2 時～午後 5 時 受付 午後 1 時 30 分～

## 4 場所 ちゃたんニライセンター(カナイホール)

## 5 出場者 北谷町立中学校代表 10 人(各中学校の代表者 5 人) ※学校代表については各校で選考会を開催し選出する。 ※原則として、男女比を均等に選出することが望ましい。

## 6 出場資格

- ・北谷町立中学校1～3学年の生徒。
- ・国際交流に積極的な生徒で、保護者の承認及び在学する学校長の推薦が得られる者
- ・北谷町が実施するハワイ短期留学派遣事業及び本事業へ未参加の者

また、家庭で英語を母国語として使用している生徒や、英語圏生活経験者及びこれに類似する生徒については大会の趣旨から対象としない。就学児年齢での(7歳以上)海外生活経験者、またはいかなる期間においても英語を主として授業を行なう学校へ通学していた生徒は対象外となる。

## 7 参加者

中学校	北谷中	生徒:45 人程度	職員:5 人(校長・教頭含む)
	桑江中	生徒:45 人程度	職員:5 人(校長・教頭含む)
町教育委員会	教育委員(4 人)、教育長、教育次長、各課長		
町長部局	町長・副町長、町議会議員		
町内各団体	PTA関係、自治会、町子連		
一般町民	出場者の家族等、一般町民		

## 8 スピーチ・カンバセーションについて

### (1)スピーチについて

① 文章内容:学校生活や将来の夢などに関する中学生らしいテーマで、中学生が使用する単語や文法、文章を使用する。

② 発表時間:2 分 30 秒以上 3 分以内

### (2)カンバセーションについて

① 内容: 学校生活や日常的な活動に関する 1 つのトピックに基づき、英語で質問や会話をする。  
トピックは事前(約 3 週間前)に学校を通して通知する。

② 方法: 司会(大人)を中心に、出場生徒同一の席でピックの内容について英語で会話を行う。生徒は上記に関する簡単で日常的な英会話と積極的な発言が求められる。

③ 時間: 30 分以内

## 9 審査 英語に関する学識者 5 人により協議して審査する。

## 10 表彰 最優秀賞 1 人、優秀賞 3 人、優良賞 6 人

## 11 派遣 最優秀賞、優秀賞の計 4 人はイギリス派遣を内定する。

# 第19回 北谷町中学生英語スピーチ・

## カンバセーションコンテストプログラム

日時 令和元年8月30日(金)午後2時～

場所 ちゃたんニライセンター1階カナイホール

### 1. 開会式

(1) 主催者あいさつ 教育長 津嘉山 信行

(2) 激励のあいさつ 町長 野国 昌春

### 2. スピーチ／カンバセーションコンテスト

(1) 趣旨説明及び審査委員紹介 (司会)

(2) スピーチ 桑江中学校3年 傳道 有 「My Dream」私の夢

北谷中学校3年 末吉 優衣 「Learning from the speech contest」全国大会に行つて

北谷中学校3年 田場 日向子 「To Protect Our Beautiful Ocean」きれいな海を守るには

桑江中学校2年 ジョンソン ジャスミン美魅 「My Dreams For the Future」私の将来の夢

北谷中学校2年 上間 花恋 「Do you think junior high school students need a smartphone?」中学生にスマホは必要と思いますか

桑江中学校3年 花城 一華 「A Young Dream」若い夢

北谷中学校3年 末吉 裕喜 「Gender Equality」男女平等

桑江中学校3年 茂木 稜 「A Little Courage」少しの勇氣

北谷中学校3年 親川 美月 「My determination」私の決意

(3) カンバセーション //

— 休 憩 —

### 3. 平成30年度英国派遣参加者報告

発表者：球陽高等学校 1年 大城 誉 球陽高等学校 1年 目取眞 百花

開邦高等学校 1年 石川 日菜里 普天間高等学校 1年 田仲 花鈴

桑江中学校 3年 儀間 穂香 桑江中学校 3年 宮平 莉吏

### 4. プレゼンテーション

発表者：永田 龍斗(平成24年度 北谷町英国交流事業派遣者)

・北谷中学校卒業、球陽高校卒業、名桜大学在学中

・球陽高校在学中(H26.8月-H27.6月)アメリカ インディアナ州 フロイドセントラル高校留学

### 5. 表彰式

(1) 成績発表及び講評 審査員長 中頭教育事務所 指導主事 桃原 清文

(2) 表彰 北谷町教育委員会 教育長 津嘉山 信行

(3) 閉会のことば 北谷町教育委員会 学校教育課長 原田 利明

## 第19回 北谷町中学生英語スピーチ・カンバセーションコンテスト審査員

### 1. 審査員構成

英語の堪能な5人で審査員を構成する。なお、審査員長は審査の統括、講評を行う。

### 2. 審査員氏名

審査員長	沖縄県教育庁中頭教育事務所 指導主事	桃原 清文
審査員	沖縄県立球陽高等学校 英語教諭	大城 喜一
審査員	沖縄県立球陽高等学校 ALT 講師	アレサンドラ ロードス
審査員	沖縄県立北谷高等学校 英語教諭	與儀 アイリーン由維音
審査員	沖縄県立北谷高等学校 ALT 講師	ジェナ ポンテス ボジェ

### 3. カンバセーション司会

北谷町立北谷第二小学校 英語指導助手                      グラブ リッキー クリスティーン

### 4. 審査結果

#### 最優秀賞(1名)

北谷中学校 3年 親川 美月 「My determination」 私の決意

#### 優秀賞(3名)

桑江中学校 3年 傳道 有 「My Dream」 私の夢

北谷中学校 3年 末吉 裕喜 「Gender Equality」 男女平等

北谷中学校 3年 末吉 優衣 「Learning from the speech contest」 全国大会に行つて



主張発表を行った9名 上段左から

上間花恋さん、花城一華さん、茂木稜さん、田場日向子さん、ジョンソン ジャズミ美魅さん  
傳道有さん、末吉優衣さん、親川美月さん、末吉裕喜さん

Chatan junior high school  
Mizuki Oyakawa

### My determination

Have you ever imagined your future or the way you are working?

It was during my middle school second grade work experience that I started to think about my future. I went to a nursing care home for the elderly and learned about care work while actually experiencing taking care of elderly people. Since I was small I have spent a lot of time with my grandparents so it was exciting for me to be able to interact with the elderly. I worked with the facility staff as an assistant, helping with rehabilitation and hosting recreation time. I really enjoyed working at the nursing care home. Once, I asked one of the staff "Isn't this hard work?" He answered, "Yes, it is hard, but the happiest time is when you see the old people's smiles" His words affected me strongly.

However, I thought that there should be different ways of rehabilitating people according to each individual's needs. Care workers should not be satisfied by assuming that the person they are serving is pleased with what they are giving.

It was a good chance for me to learn not only about the job but also the reason why I have to work and for whom I have to work for. This experience made me think about my future. I am interested in the human body and I have been told by my family that I am good with my hands. I decided I wanted to be a doctor. First and foremost, I have a strong desire to help someone in need.

I want to help patients and at the same time make their families happy. I think a doctor's job is not only curing patients' illnesses but also calming their families' anxieties. Becoming a doctor is not easy: and even if I become a doctor I have to continue studying to keep up my skills and knowledge. I would like to tell my patients "Let's cure this illness together as a team". I believe that my words would help the patient calm down and trust me.

So, what do you want to be or do in your future? If you haven't decided yet, why don't you find out what kind of things or topics you are interested in? Keep looking - you might discover something the same way I found out about my future.

北谷町立北谷中学校

3年 親川 美月

## 私の決意

あなたは自分の将来や自分が働いている姿を想像したことがありますか。私が将来について意識するようになったのは、中学2年生の職場体験の時です。老人介護施設に行き、介護の仕事を実際に体験して利用者と交流しながら介護に関する仕事について学びました。おじいちゃん、おばあちゃん子の私は、高齢者の方々と交流できることが楽しみで、わくわくしていました。そして、体験当日は職員の方とリハビリ介助のお手伝いやレクレーションの司会等をしました。実際に体験して、介護の仕事はとても楽しかったです。ある時私は職員の方に「仕事は大変じゃないですか？」と聞いてみました。するとその方は「大変な仕事ではあるけれど、利用者さんの笑顔を見るときが一番幸せだよ」と答えてくれました。その言葉は私の中に強く残りました。

しかしながら、介護を通して介護には一人ひとりに合った介護の仕方や、リハビリの仕方があるのではないかと思います。介護する人は自分だけが満足する介護ではなく、介護される人に喜ばれるような介護をする方が良いと思います。

私は職場体験を通して、ただ働くだけではなく、なぜ働くのか、だれの為に働くのかという事を一生懸命考え将来の事についても考えるようになりました。私は人の体について勉強することに興味があり、家族からは手先が器用だと言われることもあり、医者になることを考えるようになりました。そして、特に助けを必要とする人々の役に立ちたいと思いも強いので、医者になることを決心しました。

私は患者さんを助け、治すだけではなく、同時に患者さんの家族も幸せにしてあげられる医者になりたいです。医者になることは決して簡単なことではありません。もしなれたとしてもその後も膨大な知識や技術を身に着ける努力をし続けなければなりません。そして、私が医者になったら、患者さんへ「一緒にチームでがんばりましょうね」と声をかけたいと思います。そうすることで患者さんが安心して、私を頼りにしてくれると思います。

さて、みなさんは将来何になりたいですか、または何をしたいですか。もし、まだ決まっていない人は、まずは自分が興味のある事、または課題を見つけたらどうでしょうか。探してみてください、私が私自身の将来の夢を見つけたように！

Kuwa Junior High School  
9<sup>th</sup> grade Yu Dendo

## My Dream

Have you ever thought about what you want to be in the future? When somebody asked me what I want to be in the future, I used to answer them that I want to be a pharmacist. Actually, I just said it without thinking deeply because I've learned about pharmacology in class and I had a chance to observe the pharmacist's job on the occupational field trip and "Shokuba-Taiken." On the other hand, I had been asking myself, do I really want to be a pharmacist?

One day, something happened to my family. My grandfather was hospitalized and he had a big heart operation. He was hospitalized where my mother works as a nurse. Fortunately, the operation went successfully. All doctors and nurses were working so hard to save my grandfather's life. They took care of him with all their dedication and professionalism day and night. After the operation, my grandfather got better day by day. He looked pale before the operation, but he looks fine and his heart is working regularly now. I was very impressed by their great work. All of my family appreciated the hard work the doctors and nurses did.

We live in the same house with my grandparents, but during my grandfather's hospitalization, my grandmother stayed in the hospital with him, and we felt lonesome. I recognized the importance of health, and how much we love our grandparents and depend on them.

I have learned many things from my grandfather's illness. After his operation, I strongly thought *I want to be a doctor*. I want to help not only sick people's physical or mental problems, but also the mental support for their families. I asked my mother, and I surfed the internet on how to be a doctor. I realized that I should do my best with whatever I can do now. I decided to go to "Juku" and study hard to improve my knowledge.

You may have your dream already, or you may not have decided what you want to be. I believe that time spent on fulfilling your dream should not be wasted. The effort of making sacrifices to make your dream come true will be a big reward to your future.

北谷町立桑江中学校

3年 傳道 有

## 私の夢

みなさんは、今、将来就きたいと強く思っている仕事はありますか。私は、今まで薬剤師という職業が自分が将来就きたい仕事だと考えていました。しかし、それは、将来特に就きたい仕事でなかった私は、将来の夢を聞かれ、以前、見学で見たことがある薬剤師という仕事を将来の夢として、その場しのぎで答えていました。また、学校の授業などで薬剤師という職業について勉強していくうちに、この仕事もいいなと思ったことも理由の一つでした。一方で、本当に薬剤師になりたいと思っているのか、これを将来の夢と言ってよいのか、と考えることもありました。そんな時に、将来の夢についての考え方を換えさせる出来事がありました。それは、私の祖父が入院した時のことです。祖父は、心臓の大手術を行うために、私の母が看護師として勤務する病院に入院しました。医者の方々は、祖父の命を守るために、一生懸命、昼夜問わずがんばってくれました。手術は、無事成功し、祖父も日に日に良くなっていきました。胸の動悸も安定し、顔色も良くなりました。さらに、歩けるまでに回復した祖父を見て、私の家族は、医者の方々のみなさんのおかげだと、とても感謝しました。それから私は、医者の仕事は本当にすごいのだと感じました。私の家族は、祖父母と同居しています。祖父が入院している間、祖母が付き添いで病院にいたので、とても寂しい思いをしました。このことを通して、健康のありがたさを痛感し、いかに私たちが普段、祖父母を頼りにし、大好きであるかということを実感しました。

私は、この出来事から、病気の人々を救いたいという気持ちがとても強くなりました。病気で苦しんでいる人々の体や心を救うことで、病人だけでなく、その人を支える方々の心配する気持ちを和らげることで、その周りの人も救うことができると思うからです。私は、今、医者になりたいと強く思っています。医者になるために、母に医者の仕事について聞いたり、インターネットでも調べたりしました。そして、今、自分にできることとして、塾に通い、学力向上にむけ、がんばっています。

皆さんの中には、本当に就きたい仕事がある人、または、まだない人もいます。どちらにしても、今、自分にできる事は何かを考え、頑張ってください。その頑張りに無駄はないと思います。あなたの頑張りは、近い将来必ず役に立つと私は信じています。

Chatan J.H.S.

Yui Sueyoshi

## Learning from the speech contest

Have you ever done anything to the best of your ability?

Last summer, I participated in the Prince Takamado Trophy All Japan Inter-Middle School English Oratorical Contest. I have been learning English since I was in the 3<sup>rd</sup> grade of elementary school but this was my first English contest. After passing contests at the district and prefectural levels, I was able to progress to the national competition as a representative of Okinawa.

However, I faced a lot of difficulties before I could stand on that stage and speak. I was still in the 2<sup>nd</sup> grade then, so I had club activities, cram school and other commitments, on top of which I had to remember a long English speech for the contest. At first I felt like I wanted to quit many times during practices due to pressure, but I thought giving up would be bad. Somehow, I managed to find the time - even 10 or 20 minutes - and I practiced over and over again.

The contest was held in Tokyo. I was able to listen to the other students' speeches and learn a lot of things there. The most surprising thing for me was seeing the difference in ability between me and other students. Before I took part in this contest, I had been satisfied with my English level, but during the contest, I was surprised at the high level of the other speeches. I was really shocked about my weak English. However, I realized that this experience was a good opportunity to improve my English and so I became motivated to learn English more. Now I am trying to get Eiken or join various English contests because I want to sharpen my English skills and be a person who can succeed in the global world.

Through this experience, I learned that challenging something leads to personal growth. If you have any dream or goal, you should give your best effort towards it. Of course you will face some hardships, but it will be a great chance for you to grow and improve. Never give up on anything and always do your best for a wonderful future.

北谷町立北谷中学校

3年 末吉 優衣

## 全国大会に行って

皆さんはなにかに全力で挑戦したことはありますか。

私は去年の夏、初めて高円宮杯全国中学生英語弁論大会に出場しました。私は小学校 3 年生から英語を習っていますが、英語の大会に出たのは初めての経験でした。この弁論大会で中頭大会そして、沖縄県の大会を突破し、全国大会まで勝ち進むことができました。

しかし、私がこのような大舞台に立つまでにはたくさんの苦労がありました。当時私は中学 2 年生で部活動や塾などと両立させながら長い英文を覚えられないというプレッシャーから体力的にも精神的にもとても疲れていて、時には練習中に「もう辞めたい」と思ったことも何度もありました。しかし、「このまま諦めるのは良くない」と思いました。10 分 20 分でも暇な時間を見つけて、何とか必死に練習をして大会に臨むことができました。

この全国大会は東京であり、そこで全国の中学生の演説を聞き、さらに交流会もあってたくさんの事を学びました。この大会を通して私が特に驚いたことは、私と他の中学生との考える事や英語の実力に大きな差があることでした。私は今までこのような大会に出たことがなかったので、自分の実力に満足していました。しかし、他の人の演説の内容や表現力のレベルの高さに驚くと共に、自分の実力のなさにショックを受けました。しかし、これは自分が成長する良いチャンスだと考えるようにしました。私は自分の英語の実力をもっと磨き、成長させていきたいという気持ちになりました。そして今私は英検やコンテストへの挑戦をしています。自分の英語力を高め、グローバルな環境で堂々と生きていきたいです。

私は挑戦するということは自分の成長に大きく役立つということをこの経験から学びました。皆さんが今夢や目標があるのならば、その目標に向かって挑戦してみてください。もちろん皆さんにも私が経験したようにたくさんの困難が立ちはだかると思いますが、その困難は自分が成長することのできる良いチャンスです。何ごともすぐにあきらめず、全力で挑戦し続ければきっとあなたにとって素晴らしい未来が待っているのではないのでしょうか。

Chatan Junior High School

Hiroki Sueyoshi

## Gender Equality

It has been almost two and a half years since I joined the brass band club at my school; the time flies so fast! In elementary school I was in the basketball and music clubs, but when I entered junior high school, I could not decide which club I should join.

In my first term of junior high school, I went to see the brass band club for a try out. The members were kind enough to show me how to play the instruments and actually let me try playing them. I was very glad to have met them and decided to join the brass band club at once. After I joined I found out that I was the only boy in the club, but that did not make me change my mind about joining.

Although I was the only boy, my friends never laughed at me or teased me. On the contrary they even encouraged me. I felt cheered on by my good friends. I sometimes wanted to quit the club because I did not understand "girls' talk" but I remembered my friends' encouragement and appreciated their support, and so I was able to concentrate on my playing. I would not have stayed with the brass band club if it wasn't for their encouragement. These days I sometimes go out with the club members to see other schools' concerts and events. We hang around together and have become close friends. I realized that there is no border line between boys and girls.

Some years back, the class members' list was segregated by gender. Our P.E. classes were also segregated the same way. I was surprised to hear that a long time ago technical classes were taken only by boys and homemaking classes were for girls only. I am so glad that all those differences have been abandoned now.

Chatan town's policy of gender equality says that people should help and support each other, recognize and accept each other for what they are regardless of gender. It does not matter whether you are a boy or a girl. You should enjoy playing, talking and studying together as you like. Of course, there will always be quarrels between boys and girls but things always calm down. As the saying goes: "Rain settles the soil." I hope that we can work together to build a world where everyone can be happy, whatever their gender.

Thank you.

北谷町立北谷中学校

3年 末吉 裕喜

## 男女平等

僕が北谷中学校の吹奏楽部に入部して早 2 年半がたちました。とても早いなと感じています。中学校に入学して間もない頃、部活動の選択にとっても迷いました。小学校の時はバスケットボール部と音楽部に所属していたので、中学校でも好きなことをやりたいと思い迷っていました。男子バスケットボール部に入部するか吹奏楽部に入部するか、それとも別の部か…

そこで、まずは吹奏楽部に行くと、先輩たちは優しく受け入れ、楽器の演奏の仕方を親切に教えてくれたので、とても嬉しかったです。それがきっかけとなり、吹奏楽部に入部することに決めました。しかし、入部して分かったのですが、男子は僕だけでした。

同級生からは笑われたり、からかわれたりすることもなく、むしろ「女子しかいないけど負けないで頑張れ」など、たくさんの友達が応援してくれ、嬉しかったのを今でも覚えています。その励ましがあつたおかげで、頑張ることができました。しかし、時には女子部員とあまり話しがよくかみ合わず、「辞めようかな」と思った時期もありました。しかし「応援してくれている友達がいる」と思うとやめられず頑張ってきました。入部して間もない頃、男女問わず皆に応援してもらえてなかったら、今好きな吹奏楽をしていないと思います。だから応援してくれた友達に感謝しています。そして、今では部活の仲間、もちろん女子部員たちとコンサートやイベント、遊びなどに一緒に出掛けるようになりました。この様に僕の経験から、男子なのか、または女子なのかは関係ないということが分かると思います。

以前学校でのクラス名簿は男子と女子は別々でした。また、体育の授業も別々に受けていました。しかし、今では名簿は男女混合で体育の授業も一緒に受けるようになりました。昔は技術の授業は男子だけ、家庭科の授業は女子だけが学んでいたと聞き、驚きです。今北谷町では性別に関わりなく、お互いを認め合い、支え合い、その個性と能力を十分に発揮でき、皆が輝ける「男女共同参画社会」の実現を目指しています。

このように、「好きな事をするのに性別など関係ない」と僕は思います。皆と楽しく遊び、しゃべり、学び、時には喧嘩や口論になることもあります。が、「雨降って地固まる」の諺のように仲の良い関係を築き、皆が幸せになる社会になることを願います。

# 英国派遣交流及び視察研修

## 1 英国訪問のねらい

- (1) 北谷町の歴史と伝統を尊重し、次代を担う国際性豊かな人材育成を図るために、外国の文化や習慣を見聞し、本町の発展に寄与する。
- (2) 英国の中等学校と交流を行い、本町の学校教育と生徒の学習活動等に関する取り組みに資する。
- (3) 英国の中等学校生徒との交流を深めることで、将来の希望と抱負を持ち、自己を高める機会とする。

## 2 実施期日、目的地、訪問先等

- (1) 実施期日 令和元年 11 月 15 日(金)～11月 22 日(金)
- (2) 目的地 デーン・マグナスクール(Dene Magna School)  
グロスターシャー州 ミッチェルデーン
- (3) 主な訪問先 デーン・マグナスクール(Dene Magna School)、ロンドン、グロスター

## 3 英国訪問団氏名

引率	北谷中学校	教諭	伊佐 和香乃
	桑江中学校	教諭	仲松 友美
中学生	北谷中学校	3年	花城 一華・親川 美月 末吉 裕喜・末吉 優衣
	北谷中学校	2年	大嶺 聖人
	桑江中学校	3年	奥間 未夕・安里 駿佑・傳道 有

## 4 緊急連絡先

北谷町教育委員会 電話:098-982-7705  
FAX:098-936-3491

北谷町立北谷中学校 電話:098-936-3929  
FAX:098-936-0171

北谷町立桑江中学校 電話:098-936-2244  
FAX:098-936-0172

## 5 交流校 デーン・マグナ・スクールの連絡先

住所: Abenhall, Mitcheldean, Gloucestershire GL17 0DU  
電話:010-44-1594-542370 FAX:010-44-1594-544862  
校長:Mr. Stephen Brady(スティーブン プレイディ)  
国際交流担当:レイチェル先生・トム先生・ハリー先生・オリバー先生

## 6 現地旅行社連絡先

会社名: JALPACK INTERNATIONAL(EUROP)B.V. 時間: 9:00-17:30(現地時間)  
住所: 4<sup>TH</sup> FLOOR, STANDON HOUSE, 21 MANSELL STREET, LONDON E1 8AA, U.K.  
電話: 020-7264-5193 FAX: 020-7264-5195  
緊急連絡先: 07968-629-937

### \* 在英国日本大使館・総領事館 \*

受付時間 9:30-16:30

住所: 101-104 Picadilly London W1J 7JT

電話: 020-7465-6500

FAX: 020-7491-9348

## 7 英国訪問の心得

### (1) 基本的な心構え

- ① 健康・安全に十分気を付けましょう。
- ② 身なり服装は、きちんとする。言動にも気を配り、マナーを守りましょう。
- ③ 忘れ物がないように前日までに必ず準備しておきましょう。
- ④ 見学時間は厳守し、礼儀正しく、いつでもどこでも集合時刻、集合場所を確認してから行動しましょう。
- ⑤ 英国の学校との楽しい交流ができるように、よく事前学習をしておきましょう。
- ⑥ 毎日の様子が記録できるようにメモ帳を持っておきましょう。
- ⑦ 貴重品は、大切に保管しましょう。
- ⑧ 就寝時間、起床時間を守りましょう。

### (2) 保健的な心得

- ① 衣服の調節に気を配りましょう。
- ② 寝冷え、暖房での乾燥に気を付けましょう。
- ③ 偏食しないでなんでも食べるようにしましょう。
- ④ 飲み過ぎや食べ過ぎに気を付けましょう。
- ⑤ 水道水などの生水や、生ものは避けましょう。
- ⑥ 薬は普段使用しているものを持っていきましょう。

### (3) 乗り物酔いについて

- ① 寝不足をさける。
- ② 乗り物酔いの先入観を捨てる。友達とおしゃべりしたりして気分転換を図る。
- ③ 空腹の状態ですり物に乗らない。
- ④ 近くを見ないで、遠くの景色を見るようにする。
- ⑤ 気分が悪くなりかけたら寝る。

### (4) 非常時の心得

- ① いかなる場合でも異常が発生したときには、先生または添乗員に速やかに連絡する。
- ② 慌てず、騒がず、落ち着いて添乗員及び引率者の指示に従って行動する。

## 8 スケジュール

11/15 Fri	ヒースロー空港着～フォレストオブディーンへ
午前 6:00 集合	那覇～羽田 JAL900 07:35-09:45 (2h10mins) 羽田～ロンドン JAL043 11:30-15:15 (12h45mins)
午後 15:15	ロンドン ヒースロー空港着  交流校バスにてホテルへ ディーンマグナ近くのホテルにて夕食&宿泊 「The Royal Hotel, Ross on Wye」 住所 Royal Parade, Ross-on-Wye, UK HR9 5HZ 電話 +44 1989 565105
11/16 Sat	ホストファミリー対面式・ファミリーデイ
午前	ホテルで朝食後, そのままホテルでホストファミリーと顔合わせ
午後	ファミリーデイ ●ホームステイ 1 日目
11/17 Sun	ロンドン市内へ視察研修
全日	1 マイクロバスにてロンドン市内へ。視察研修 (DMS 交流メンバー・引率者・ホストファミリー保護者含む) ●ホームステイ 2 日目
11/18 Mon	ディーン・マグナ・スクール
全日	ディーン・マグナ・スクールにて 1 歓迎会、学校ツアー、授業参加 2 学校のカフェテリアでランチ 3 ホスト生徒と授業参加 ●ホームステイ 3 日目
11/19 Tue	小学校訪問／ディーン・マグナ・スクール
全日	1 フォレストビュー小学校訪問 2 学校のカフェテリアでランチ 3 ホスト生徒と授業参加 ●ホームステイ 4 日目
11/20 Wed	ディーン・マグナ・スクール／グロスター
午前	1 授業参加
午後	2 学校のカフェテリアでランチ 3 大聖堂見学へ（フォグワーツ）ハリーポッターの撮影場所にもなったところ。 4 ザ・ドックス見学 5 レストランにてお別れ会ディナー ●ホームステイ 5 日目
11/21 Thu	ヒースロー空港へ
午前	1 DMS スタッフと共に視察（ウィンザー城） 2 空港へ 搭乗手続き
午後	ロンドン～羽田 JAL044 19:00-15:55 (11h55mins)
11/22 Fri	機内にて日付変更
午後	羽田～那覇 JAL925 19:40-22:20 (2h40mins) 那覇到着！お疲れ様でした♪

## 英国派遣報告書

北谷中学校2年 大嶺 聖人

今回僕は、北谷町の代表としてイギリスへ行かせてもらいました。

飛行機に乗る前から、僕のドキドキは止まりませんでした。乗っている間でさえ、あまりに長いフライトに、改めて日本からイギリスまでの距離は長いと思いました。東京も寒かったですが、イギリスとは比べものになりませんでした。肌を刺すような寒さ、止まらなくなるほどの震え。今となってはそのどれもが良い経験でした。



イギリスは朝食は少なく、その分夜の食事ではとてもたくさんの食べ物が出ました。イギリスの食べ物は美味しくないと聞きますが、そんなこともなく、思っていたよりは食べることができました。

僕たちが行ったディーンマグナスクールという学校の生徒は、集中力がすごいと思いました。学校の設備も整っていて、みんなが一つのホールで食べる昼食もいいなと思いました。

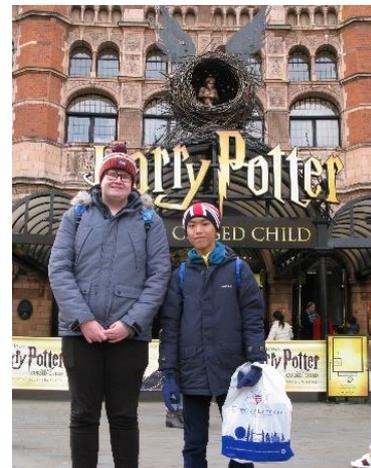


僕がステイしたマーキイ家は、とても人が良く、ジャックも常に気遣ってくれました。夏に、ジャックが僕の家にもホームステイしてお互いのことを知っていました。だからロンドンでは、僕の好きなハリーポッターの場所へ連れて行ってくれました。イギリス人のファンタジー愛はすごいです。ハリーポッター以外でもたくさんのファンタジー系のものを売っていました。本が好きな僕にとって理想の一つと言える環境だと思

えました。

今回の派遣で学んだことはたくさんありましたが、中でも、英語は話そうと思う意欲があつたらきっと話せる、世界から学ぶと多くのことが得られる、大切なのはコミュニケーションとアイコンタクトということです。

一週間という短い時間でしたが、一生の忘れられない思い出を、心に刻むことができ本当に良かったと僕は思っています。



## 英国派遣報告書

北谷中学校3年 親川 美月

私は6泊8日のイギリス派遣に参加して、外国の文化や習慣を学ぶことができました。行きの飛行機の中では、不安や緊張と一緒に期待も膨らんでいきました。

イギリスに到着して初日はホテルに滞在しました。このホテルは迷路のような構造になっていて、自分の部屋にたどり着くのも大変でした。その日はとても疲れていたもので、ぐっすり眠ることができました。



翌日は初めてホストファミリーと会いました。パートナーのデージー、お姉さんのエリー、お母さんのキャロラインと一緒に動物園に行きました。虫や魚なども展示されていて、動物園と水族館、植物園が合わさったような不思議な感覚でした。デージーが沖縄に来るときは、沖縄の動物園や水族館を紹介したいなと思いました。

日曜日、お父さんのポール、キャロラインとデージーと一緒にロンドン観光に行きました。有名なバッキンガム宮殿や観覧車のロンドンアイなどを見ることができました。ビックベンは工事中だったけれど、見れて良かったです。沖縄とは建物の構造や高さも違い、まるで映画の中にいるような感覚になりました。一日中歩いていたのでとても疲れたけれど、充実した一日を過ごすことができました。



月、火、水曜日の3日間はディーンマグナスクールに通って実際に学校生活を見ることができました。特に水曜日は小学校も訪問しました。一緒に運動場で遊んだり、歌を披露してくれたり、とても楽しかったです。

木曜日は午前中だけ授業を受けて、午後からはパートナーのデージーと一緒に大聖堂やクリスマスマーケットに行きました。大聖堂はハリーポッターのモチーフにもなった所で、とても大きく、様々な仕掛けがありました。例えば場で小さい声を出しても聞こえる廊下や、天井を見ることができる鏡など、面白いものがたくさんありました。私が驚いたことは、建物内に車椅子専用のリフトがあったことです。どんな人にも見学しやすいようにバリアフリーが整えられているのだと感心しました。



クリスマスマーケットでは、たくさんの面白い店を見て周ることができました。まだ11月の中旬だというのにクリスマス一色でとても賑やかでした。デイジーやその友達も楽しそうにしている、イギリスのクリスマスがとても好きになりました。この一日だけで、私たちと向こうの距離が近くなったように感じました。イギリス滞在最終日、この日は学校に朝早く集合しました。ここでお別れすることを知った私は、キャロライン、デイジーとハグをして、「来年は沖縄でね。」という約束をしました。泣きそうになるのを我慢して別れました。別れてから私たちはウィンザー城に行きました。女王様の別荘のような場所で、城壁から内側を見学しました。そこでたくさんのお土産を買うことができました。日本のお城とは全く違った格好良さがある、日本と英国の文化の違いを感じました。



飛行機を乗り継いで沖縄についてからも、今までの出来事を思い出して、笑みが溢れてくるような素晴らしい時間を過ごすことができました。来年は私たちが彼らを迎えて沖縄のことを紹介する番です。私たちは今回の派遣でイギリスの人の良さや素晴らしさを知ることができました。だから来年は私たちが沖縄の良さを伝えられたらいいなと思いました。

## 英国派遣報告書

北谷中学校3年 末吉 裕喜

11月15日早朝6時。期待と不安を背負って、まだ開いていない那覇空港に私たち10名は集合しました。そして、羽田空港に到着し、初めての出国審査を受けました。そこで手荷物検査にかかってしまい、カバンの中身をすべて出されたけど、大丈夫でした。機内食が口に合わなくて、イギリスの食事も合わなかったらどうしようと不安になりました。ヒースロー空港に到着し、入国審査では無事通過しました。そ



して、しばらく待っているとディーンマグナスchoolの先生が迎えに来てくれました。空港からホテルやディーンマグナスchoolのあるフォレストオブディーンまで3時間かけて移動しました。バスに乗っていると暗くなってきたので時間を見るとまだ5時でした。5時なのにこんなに暗いんだと日本との違いにイギリスに来た実感が湧きました。ホテルに着くとホテルは迷路のようで、部屋に着くまでスーツケースを持っていくのは大変でした。その後、夕食を食べました。夕食はとても味が濃く、量も多かったです。口に合うか心配だったけど大丈夫でした。この日は長いフライトに疲れていたのかすぐ寝てしまいました。



次の日、11月16日。朝食をとり、ホテルのフロントにホストファミリーが迎えに来てくれました。その後、パートナーのイザベルとホストマザーと双子の弟のジョージとオックスフォードに行きました。お母さんはオックスフォード大学出身だと言っていて驚きました。オックスフォードでは、まず大学をお母さんが案内してくれました。僕が大学と思っていた建物がただの図書館の一部と言っていたので、大学はめっちゃ広いなと思いました。その後、買い物や近くのカフェでアフタヌーンティーという文化を体験しました。それは、とても多いサンドイッチやマカロン、ホットチョコレートを飲むおやつのようなもので、その後家に帰りました。

次の日11月17日。この日はイザベルとホストファーザーと双子の弟のチャーリーとロンドンへ行きました。まず、世界一の大きさだった事がある、ロンドンアイという観覧車に乗りました。眺めはロンドンを一望できるほどとてもきれいな景色でした。次に、川の上り、タワーオブロンドンというイギリスの歴史を学べる博物館に行きました。そこには、歴代の女王の冠などがありとても美しかったです。次にバッキンガム宮殿に行きました。そこ



では、私が一番見たかった兵隊のマーチング行進を時間が合わず見られなくて残念でした。その日の夜、日本から持って行ったお土産をあげると、すぐに遊んでくれたり食べてくれました。中でも福笑いが好評で、初めて家族みんなで遊びました。とても笑いながら楽しくやりました。ほかにも弟たちがやろうと言ってくれた UNO やジェンガをして遊びました。日本とイギリスの絆を深められたと思います。

11月18日、19日、20日はディーンマグナススクールに行きました。ディーンマグナススクールと北谷の学校との違いがたくさんありました。まず、設備です。ディーンマグナススクールには3Dプリンターや自動ドア、トレーニングジムなどがありました。また、一番驚いたのは、ランチは自分が食べたい分だけ取り、その分だけ支払う方法で、その払う方式が指紋で払うというものでした。指紋を登録して後で銀行などで払うのかな？と思いました。日本と違いがありすぎてびっくりしました。

次に学習についてです。まず、驚いたことは注意されてもおしゃべりをしている生徒は先生が廊下に立たせることです。とても驚きました。また、教科ごとに棟が分かれていて、授業でも教科書がなく、すべてプリントで学習していました。

放課後は、18日はイザベルが所属している卓球クラブに行き、19日はお土産を買いに行くため近くのスーパーマーケットに連れて行ってくれました。そして20日はグロスター大聖堂へ行きました。グロスター大聖堂はハリーポッターの撮影地で、とても幻想的でした。その後クリスマスマーケットにも行きました。クリスマスマーケットでもお土産を買いました。日本でいう食べ物や日用品など様々なものが売っている屋台のような感じでした。

文化の違いは、本当に家の中でも外履きを履くんだなと思いました。また、家はとても広く、3ヘクタールもある敷地には川が流れていました。食事は、行く前はとても心配だったけど、とても美味しく量も多かったです。僕が一番好きになったのはラザニアです。イギリスで3度ほど食べました。また、シリアルは日本ではお腹いっぱいにならないけど、イギリスのシリアルはとてもお腹いっぱいになりました。とても不思議に思いました。



最後に、このイギリス派遣で学んだことは、愛や気持ちがあれば言語が違っていても通じるということです。また、食文化や生活習慣も実際に体験してわかりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった北谷町教育委員会、イギリス派遣を担当してくださった河上さん、そして何より私のホームステイ先として私を受け入れ、いつでも優しく声をかけてくれたり遊んでくれたシュー家の皆さんに感謝します。ありがとうございました。学んだことをこれからの生活に生かしていきます。

## 英国派遣報告書

北谷中学校3年 末吉 優衣

私たちは11月15日から22日までの8日間、派遣生としてイギリスへ行きました。当日空港に着いても中々実感が湧きませんでした。羽田空港からイギリスのヒースロー空港までの飛行機は、私が普段旅行などで乗っている飛行機とは全く違って、座席のシートに小さいテレビが付いていたり、国際線なので添乗員にも外国の方がいて、飛行機の中でさえ、初めての経験がたくさんありました。



約15時間のフライトを終えて、ヒースロー空港に着きました。空港にはディーンマグナス学校の先生方が出迎えてくれました。その後、約3時間ほどかけてホテルへ向かいました。



2日目は、ホテルでホストファミリーと会い、一緒にアイススケートをしに行きました。アイススケートは初めてだったので、中々コツをつかむことはできませんでしたが、楽しい時間を過ごすことができました。その後、家に帰って夕食にイギリスの有名な「フィッシュアンドチップス」という料理を食べました。フィッシュアンドチップスはとてもボリューム満点で、味も日本の白身魚のようでとても美味しかったです。夕食の後、沖縄から持ってきたお土産を渡すととても喜んでくれ、その中でもシーサーをととても気に入ってくれました。

3日目、私たちはロンドン市内に観光に行きました。ディーンマグナス学校に集合してバスでロンドンへ向かい、そのバスからは三角屋根の家がずらりと並んでいるのが見えて、日本とは色や形が全然違っていて不思議でした。ロンドンには、高くて古い建物がたくさんありました。バッキンガム宮殿に行くと、そこでは黒い帽子をかぶった兵隊のマーチング演奏があり、とても格好良かったです。その後はロンドンの街をぶらぶらと歩き、気になるお店があったら入ったりして、ロンドンを満喫できました。

4日目、この日は初めてディーンマグナス学校に行きました。学校はとても広く、北谷中学校とは全然雰囲気の違いがありました。また、校内にはジムのような設備もあり、とても驚きました。

5日目、この日は小学校に訪問しました。小学校もとても広くて、また生徒たちもみんな



背が高くてビックリしました。日本や沖縄についてたくさん聞いてくれて、私たちが聞き取れなかったら何度も言ってくれ、とても優しく可愛かったです。

6日目、この日は派遣メンバーとそのホストパートナーたちと一緒に習字をして、みんな楽しそうにしていたので嬉しかったです。その後、ハリーポッターの撮影地になった大聖堂に行き、

そこの壁一面にあるステンドグラスがとても綺麗でした。また、クリスマスマーケットにも行き、お土産を買いました。それが終わると、レストランでお別れの会食があり、とても美味しく楽しかったです。

最終日、ホストファミリーとお別れはとても寂しく泣きそうになりましたが、何とか笑顔で乗り切りました。別れ際には「またイギリスに来ることがあったらいつでも来ていいよ。」と言ってくれ、とても嬉しかったです。ホストファミリーと別れた後、ウィンザー城に行き、お土産を爆買いしました。その後ヒースロー空港に行き、最後までディーンマグナス学校の先生が見送ってくれました。



私はこの派遣でたくさんのことを学びましたが、イギリスの文化や食だけではなく、人の温かさなど、本などではわからないことを身をもって体験することができました。建物や気温など、沖縄と違うことがたくさんあり、最初から最後までずっと不思議な気持ちでした。



最後に、この素晴らしい体験を私たちにさせてくれた教育委員会の方、イギリスにいる間私を家族のように接してくれたホストファミリーの方や、8月の大会からずっと支えてくださった先生や家族に感謝し、この経験をたくさんの人に伝え、また私のこれからの将来に繋げていきたいです。

## 英国派遣報告書

北谷中学校3年 花城 一華

私は11月15日から22日、6泊8日北谷町英国派遣交流に参加しました。私にとって3回目の海外でしたが、一人でのホームステイは初めてだったので緊張しました。

1日目、空港に朝6時に集合しました。普段では絶対に起きれない時間に起きたのも緊張や楽しみな気持ちがあったからだと思います。親と離れるのは自分でも驚くほど寂しくありませんでした。ロングフライトは映画などを観ているうちにあっという間に過ぎました。イギリスの入国審査は機械で行っていたのも現代ならではのなと感じました。ディーンマグナスchoolの先生2人が迎えに来てくれ、「寒い？」など声をかけてくれたり、キャリーケースを運んでくれたりイギリスに来てすぐ人の優しさに触れることができました。ホテルは日本にはない迷路のようなホテルでした。



2日目、朝ご飯はオムレツを食べました。チーズが入っていて、母が作るチーズイン卵焼きのようでした。その後ホストファミリーに会い、車に乗り自己紹介しました。車の速度が速いうえに、道がよく曲がっていて、高低差もありました。元々車酔いをしやすいので、イギリスで車を乗ると毎回車酔いをしてしまい、コミュニケーションをとることができなかつたです。家は沖縄で大きいほどの大きさと、きれいでした。

日本は和室など開放的な空間が多いのですが、子供一人一人に部屋があり、私にも部屋があったので驚きました。プライベートを大切にしている所が良いと思いました。

3日目、朝早く起きてバスでロンドンに行きました。フォレストオブディーンとは違う美しさで、レンガ作りの建物が多かったです。私が楽しみにしていたうちの一つである、バッキンガム宮殿でのマーチングを見ることができました。歩き方や格好が勇ましく、かっこよかったです。たくさん歩き、とても疲れました。

4日目から6日目までディーンマグナスchoolの授業を受けることができました。全体的に生徒が真剣で、静かに授業を受けていました。このようなところは見習っていかないとと思いました。私が面白いと思ったことは、女生徒もスカートかズボンを選べるということでした。





す。日本の中学校で選べるというのは中々ないと思います。時代の流れでこれも認められているのかなと思いました。夕食はホストマザーが作ってくれました。日本のように豪華ではなく、味付けもあまりされていませんでした。それも美味しかったのですが、改めて日本食の良さにも気付くことができました。7日目、学校にスーツケースを持って集合しました。みんなで集合写真を撮りました。1週間たくさんの人にお世話になり、お別れの時ハグをした瞬間に寂しさのあまり涙がこみ上げてきました。バスが見えなくなるまで手を振ってくれ、とても嬉しかったです。次に沖縄で会うのが楽しみで待ちきれ

れないです。学校の他にも大聖堂やクリスマスマーケットにも行きました。美月さんと優衣さんとそれぞれのパートナーとグループ行動で回りました。普通の友達と遊びに行くような感覚で、ふざけ合ったりとても楽しいひと時でした。

この1週間でももちろん英語の能力が上がったと思います。また、とにかく人が優しく感動しました。私もこのように身の回りの人を大切に生きていこうと思いました。またお互いの良い部分を取り入れるとより良いものが作れると考えました。イギリスで学んだことを友達、家族から伝えていきたいと思います。このような機会をつくってくれた北谷町教育委員会、両親に心から感謝しています。ありがとうございました。



## 英国派遣報告書

桑江中学校3年 安里 駿佑

私は今回のイギリス派遣を通して、これまで全く知らなかったイギリスの文化や生活スタイル、現地に行かないと感じられない人の温かさなど、とても多くの貴重な体験をさせていただきました。

まずは余談ですが私がイギリス派遣に参加するきっかけを言いたいと思います。夏休み前のある日のことでした。給食時間の放送で、「イギリス派遣に参加希望したい生徒は



昼休み2階の頑張り教室に集まってください。」という放送があり、校内オーディションに参加することになりました。校内オーディションが終わり、しばらくしてついに結果が発表されました。私は推薦に選んでもらい、このイギリス派遣に参加することができました。イギリスに出発する前も、毎週水曜日に集まりがあり、そこで北谷町の歴史やイギリスについての基礎知識を習いました。

11月15日、ついに出発の日がきました。不安と期待が最高潮になり、複雑な思いを胸に沖縄を出発しました。羽田で乗り継ぎをしてロンドンまで12時間。この時にはすでに楽しさが勝っていました。そしてついにイギリスが見え、一度も見たことのない景色にとても心が躍りました。空港にはディーンマグナスchoolの先生が迎えに来てくれて、1日目の滞在先であるフォレストオブディーンのホテルに向かいました。

2日目、ホストファミリーの方々と対面し、ホームステイ先の家に向かいました。家も庭もとても大きく、周りは木々に覆われていて、川もありとても幻想的な雰囲気でした。その日はオックスフォード観光に行き、そこではホストの母がとても丁寧に街を案内してくれました。ホストの方々の優しさのおかげで1日で緊張を解くことができました。



3日目は派遣メンバー、ホスト家族でロンドン観光に行きました。ロンドンでは観覧車に乗せてくれたり、イギリス王室の歴史について学べるタワーオブロンドンや、あの有名なバッキンガム宮殿などをホストの父が案内してくれ、最高のツアーでした。

4日目、初めてディーンマグナスchoolに行き、イギリスの学校生活を体験しました。生徒には色々な髪の色や目の色の人が出て、一人ひとりの個性がとても尊重されていました。昼ごはんは校内の大ホールで、ディーンマグナスの生徒に交じって一緒に食べました。イギリスは日本のようにみんな弁当を持参し



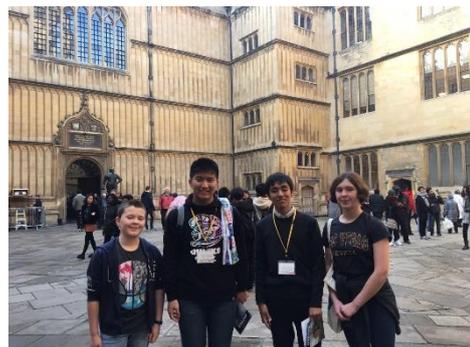
たり、校内のカフェテリアで購入したりしてそれぞれ違うものを食べていました。また、カフェテリアでの支払い方法も驚きで、機械で指紋認証をして支払いを行っていました。イギリスの学校は自動ドアや3Dプリンター、生徒が授業で使うパソコンが何十個もあり、最先端の機器が揃っていました。また一番驚いた違いは、みんな自分の教室がなく、常に移動教室だったことです。放課後は卓球クラブに参加しました。ディーンマグナには

幅広い年代層の生徒がいて、卓球を通じて年下の生徒とも関わられたので、とても楽しかったです。

5日目はフォレストビュープライマリースクールという小学校に訪問しました。私たちの為に生徒が校内を案内してくれたり、みんなで歌を歌ってくれました。その後は校庭に出て遊具で遊んだり、かけっこをしてとても楽しい時間を過ごすことができました。帰宅後、ホストの方々に沖縄から持ってきたプレゼントをあげるととても喜んでくれました。

6日目、午前は学校で習字をし、ホストに漢字で名前を書いてあげるととても喜んでくれ、頑張って書いていました。午後からはグロスター観光をし、クリスマスマーケットに行きメリーゴーランドに乗ったり、夜はみんなでお別れの食事会をして楽しい時間を過ごしました。

そしてついにお別れの日が来てしまいました。朝、父・双子の弟・妹とお別れをし、スーツケースを持って学校に向かいました。学校に着いた後すぐに母とお別れをしましたが、「またいつでも来てね。」と言ってくれてとても嬉しかったです。そしてホストパートナーともお別れの時、たった一週間一緒にいただけなのに別れるのがとても悲しく、沖縄に帰りたくないという気持ちが一番でした。バスに乗り込むとホストの方々が泣いていて、こんなに私たちのことを思ってくれていたことを知り、嬉しさと悲しさが混ざり合い、とても複雑な気持ちでした。今回のこの派遣事業に携わってくれたすべての人に感謝し、もしこれから高校などにこのようなプロジェクトがあれば積極的に参加し、北谷町そして沖縄県とイギリスの懸け橋になりたいです。



## 英国派遣報告書

桑江中学校3年 奥間 未夕



私達英国派遣団は11月15日、わくわくした気持ちを胸に、那覇空港を出発しました。13時間の長いフライトを終え、ヒースロー空港に着きました。外に出た瞬間、とても寒くて気温を見ると4℃でした。白い息が出て、イギリスという異国の地に来たんだと実感しました。ディーンマグナスchoolの先生が出迎えてくれて、トイレ休憩の時にその先生と英語で会話をしました。イギリスで有名なネットボールの話や、カフェの話をして、“Your English is wonderful. Are you learning English at school?”と言ってくれてとても嬉しかったです。そしてホテルに到着して、夕食をいただきました。とても量が多く、前菜、メイン、デザート、とコースの料理で美味しかったです。

次の日、フロントでホストファミリーと対面しました。パートナーのマーサと再会するのは4か月ぶりで、やっと会えたね！とハグをしてとても嬉しかったです。そして1時間かけてオックスフォードへ向かいました。イギリスで初めて2階付のバスに乗り、オックスフォードの街中を通ると古いレンガの建物が並んでいて、映画に出てくるような雰囲気でした。オックスフォードで初めてレズビアンカップルの方を見て、びっくりしたけどそれ以上に誰も気にせず普通に歩いていることに驚きました。実際にLGBTQの情報を集めた小さな資料館に行って、イギリスではLGBTQについて理解が進んでいるんだと知りました。日本ではまだ偏見がある中、イギリスではお互いを認めて尊重しあっていることを知り、私達日本人もこのような理解を深めて互いを認め合うことが出来るようになればいいなと思いました。オックスフォードにはたくさんの大きな教会や図書館があり、とても美しい街でした。そして一番楽しみにしていたオックスフォード大学と英国国教会へ行きました。オックスフォード大学は予想以上に大きくて綺麗な建物で感動しました。家に帰り、夕食はフィッシュアンドチップスを食べました。初めて食べる料理で、日本の白身魚と似ていて美味しかったです。夜、スーツケース半分のお土産を渡すと喜んでくれて、特にだるま落としや福笑いなどを家族で遊んだりしてとても楽しかったです。

3日目は、待ちに待ったロンドン観光でした。ビックベンは修理中で少し残念でしたが、ロンドンアイという観覧車はとて大きくてビックリしました。ロンドンの街並みもレンガで作られた建物が多く、現代と古代が混ざり合ったとても素敵な街でした。バッキンガム宮殿はとても美しく、本当に沖縄とは別世界のような感じでした。一番印象に残っている場所はタワーオブロンドンです。歴史を学ぶことが出来る場所で、理解できるか不安だったけど、ホストファーザーが詳しく、わかりやすい英語で話してくれてたくさんのイギリスの歴史を学ぶことができ、処刑場や日本の甲冑もあつたりして驚きました。そして近くからタワーブリッジを見ました。実物で見ると大きくて面白い造りでした。ロンドンでは歴史を学べて観光名所も行けたため、とても濃い時間を過ごすことができました。

4日目、初めてディーンマグナスchoolに登校しました。数学の授業では一人一人がホワイ

トボードを持ち、それに問題の答えを書いて発表していて、日本と授業形式が違いました。授業では誰も居眠りをしている人がなくて日本とは意識の高さが違うなと思いました。生徒みんな個性豊かで優しくて、とても賑やかな学校でした。放課後は cream tea というイギリスの文化を体験してケーキなど沢山ご馳走してくれて和やかな雰囲気でした。

5日目、Forest view primary schoolに行きました。歌をプレゼントしてくれた後に運動場で遊んだ時に、「日本ってどんな所？」などとたくさん日本のことを質問してくれて、答えると「日本っていい国だね！絶対行く！」と言ってくれてとても嬉しかったです。

6日目、授業で習字を披露しました。みんな興味を持ってくれて、家族全員分の名前の漢字を作るととても喜んでくれて嬉しかったです。午後はグロスターを観光しました。ハリーポッターの舞台となった大聖堂を見て、とても大きくてステンドグラスから入る太陽の光が映えていてとても綺麗でした。イギリスでは亡くなった人を地下に埋葬することが多らしく、この教会にもたくさんの人が地下に埋葬されていると聞いて驚きました。その後、ザ・ドックスのクリスマスマーケットへ行きました。みんなでメリーゴーランドに乗ったり、お店を回ったりして過ごしました。夜は家で、最後の夜を楽しみました。イギリスのゲームの pig というゲームやジェスチャーゲームをしたりしてとても嬉しかったです。イギリスの現在の政治のことや大統領の事などを話せて、ここまで深い話ができると思ってなかったので話せて嬉しかったです。

最終日、ディーンマグナススクールでみんなとお別れをしました。マーサとホストマザーにたくさん感謝の言葉を伝えて、「3年後に絶対また来るね。」と言いました。最後のバスに入るまでマーサは泣いて手を振ってくれました。イギリスと沖縄で約一週間ずつ過ごしただけの短い間だったけど、本当の家族のようにいつも笑顔で優しく接してくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。次はホストファミリーみんなを沖縄に招待したいです。お城に行き、お店を回ったりしたあと、ヒースロー空港に到着し、約14時間かけて沖縄へ到着しました。ずっと沖縄に帰りたくないと思っていたけど、着いた瞬間はほっとしたような気持ちになりました。

私はこのイギリス派遣を通して沢山の学びと、文化や習慣の違いを知ることができました。沢山のイギリスの人達とコミュニケーションがとれて、こんなつたない英語でも理解しようとしてくれて友達の輪が世界まで広がって嬉しかったです。この8日間、イギリスでたくさんのお会いがあり、初めての経験ばかりで人生で一番濃い8日間でした。今の私の夢は、国際交流を主とする仕事に就いて、もっと多くの世界中の人と関わることです。そのためにも次に会う時までにもっと英語力を向上させ、これからも勉強を頑張ろうと思います。そしてこの交流で得た知識や経験を周りにシェアしてこれからの沖縄や北谷町、自分の将来に繋げていきたいです。最後に、この英国派遣に携わってくださった全ての人に感謝します。このような素晴らしい機会を与えてくださった北谷町や教育委員会の皆様、事前学習でサポートをしてくれた河上さん、ホームステイ受け入れをしてくれたホストファミリー、引率してくれた先生方、一番支えてくれた家族、たくさんのおかげで素晴らしく忘れられない経験をすることができました。これからも、出会った仲間を大切に、この経験を活かして自分の夢に向かって頑張ります。



## 英国派遣報告書

桑江中学校 3年 傳道 有

私達は、11月15日から7日間イギリスのフォレストオブディーンに滞在しました。

11月15日の朝6時に、那覇空港へ大きなスーツケースを持って集合し、羽田空港へ向かいました。那覇空港で両親と別れた時は、不安でいっぱいでした。しかし、羽田空港からヒースロー空港へ向かう機内でみんなとこれから行くイギリスでの過ごし方について話していくうちに不安はワクワクに変わっていきました。ヒースロー空港に着いたらディーンマグナスクールの先生方が迎えてくれて、ホテルまで送ってくれました。



約12時間の飛行機の旅は、初めてでとても疲れましたが、それよりもこれから過ごすイギリスの生活への期待感がこみ上げてきました。ホテルに着くとすぐに夕食の時間でした。初めて食べるイギリスのご飯は量が多く濃い味付けでした。

2日目の11月16日は、ホテルで朝食を食べた後、ホストファミリーと対面でした。私のホストファミリーの方々には、私に微笑んでくれて、どんな家族か不安でしたが、安心しました。そこでみんなと別れて、それぞれの家庭へ向かいました。家へ向かう車内では、私にわかりやすい英語で話しかけてくれました。家に着くとペットの犬のマックスが出迎えて



くれて、一緒に散歩にいきました。その後、フィッシュアンドチップスを食べに行き、買い物にも行きました。フィッシュアンドチップスは皿からはみ出しそうなくらい大きかったです。また、スーパーには携帯や洋服、DVDなども売られていて驚きました。

3日目の11月17日はロンドンへ行きました。ロンドンではビッグベンやタワーブリッジを見たり、地下鉄に乗ったりしてイギリスの観光名所を見ることが出来ました。また、至る所で路上パフォーマンスを目にしました。

4日目に初めて、ディーンマグナスクールへ登校しました。フランス語の授業では、みんな真剣に授業を受けていて、居眠りをする人は一人もいませんでした。放課後には、ホストファミリーとクリスマスマーケットに行きました。そこでホストファミリーおすすめのホットチョコレートを飲みました。寒い外で飲むホットチョコレートは、とても美味しく感じられました。

5日目はフォレストビュー小学校を訪問しました。小学校では、沖縄のプレゼンテーションを行い、みんなでカチャーシーを踊りました。そのお礼に小学生が歌を歌ってくれました。

みんなで外に出て20分ほど遊びました。話しかけてくれる子や空手を披露してくれる子もいて、とても楽しい時間を過ごすことができました。放課後はホストファーザー、ホストマザーと一緒にボウリングやエアホッケーをして遊びました。

6日目は、ディーンマグナススクールでみんなと習字をしました。ホストファミリーの名前を漢字で書きました。家に帰って、習字で書いた名前を見せるとホストファーザーとホストマザーは、とても喜んでくれました。放課後は、ハリーポッターのロケ地となったグロスター大聖堂やクリスマスマーケットにみんなで行き、お別れ会ディナーをしました。

7日目、ホストファミリーとお別れの朝を迎えました。一度学校へ行き、お別れの挨拶と記念撮影をしました。とても寂しくて、自然と涙が流れてきました。その後ウィンザー城に行き、イギリス王室の歴史などの展示物を見学しました。そして、ヒースロー空港に向かいました。その時はまだ、ホストファミリーとお別れをした実感がなく、ふとした時にホストファミリーのことを考えるととても寂しく思いました。

私は、今回の英国派遣を通して、日本とは違うイギリスの歴史や文化に触れることができました。また、言葉の壁は、人の温かさと伝えたいという気持ちで超えることができるという事を学びました。私はこれから、もっと英語の勉強に励み、留学などを通して語学力を高め、いろいろな人々と関わり人として成長していきたいと思います。



2019年11月15日(金)～11月22日(金)までの8日間、北谷町英国派遣交流事業に参加する生徒の引率職員として参加させていただきました。

参加生徒は、桑江中学校3名(中学3年女子2名、男子1名)、北谷中学校5名(中学2年男子1人、中学3年女子3名、男子1名)の計8名でした。参加した8名の生徒は、本町が主催する『第19回 北谷町中学生英語スピーチ・カンパセーションコンテスト』での入賞者4名、学校推薦者として北谷中学校より2名(中学2年生 男子1名、中学3年生 1名)、桑江中学校より2名(中学3年生 男子1名、女子1名)の計3名による構成であった。参加した生徒は互いに話し合いをしながら協力しあってディーン・マグナ・スクール(以下DMS)での学校生活を楽しんでいる様子が見られました。また、6回の事前研修では、沖縄や北谷町の文化歴史に関する事、北谷町が英国との交流事業ができるようになった経緯など、新しい発見や知識を学ぶことができ、改めてこの地に生まれてよかったと再認識することができました。子供たちはこの事前に学習した知識があったからこそ、自分に自信をもって外国の方に臆することなく中学生らしい、いろんなことに興味関心をもって満喫した交流ができたと思います。



## 1. 引率者として

### (1) 参加する子供たちが現地で困らないように支援する

毎朝、ホストファミリーとの関係やDMSに在籍するホスト生徒とのマッチング、参加した授業の受け具合など、本人たちの体調や要望の聞きとりをしたが全く問題なく8日間を過ごすことができていた。子供たちの昼食時における、会



話の内容から毎日何かしらテーマをもちながら過ごし、新しい発見や体験を通して日々成長しているこ

とを感じた。やはりある程度の英会話力とコミュニケーション力がなければ、この研修は、ただの旅になっていたかもしれないと感じた。何よりDMSのスタッフによる配車の職員担当割り当てなど、日本からの引率者が過ごしやすくするための“英国式 おもてなし”と気配りには「感謝」の言葉しかない。



(2)学校教育(中等学校)における日英比較

(北谷中と DMS との比較を通して)

授 業	
日本	英国
① 50分授業	① 60分授業
② 電子チャイム音 10秒くらいの長さ	② 非常用ベルの音(5秒くらいの長さ)
③ 教科書・ワークブック・ノート等	③ 教科専用ノート・プランナー(スケジュール帳)
④ 本時の「めあて」にそった一斉→ペア学習→グループ学習	④ 本時の「めあて」にそった一斉→ペア学習→個人→振り返りテスト→ICT理解度チェック(スペイン語の授業)
⑤ 学級毎の時間割	⑤ 自己責任による授業選択(必修教科あり)
⑥ 出席簿による呼名確認	⑥ ICTによる出席確認→データ化され共有(全教科)
⑦ 始終の号令あり	⑦ 始終の号令なし
⑧ 授業中の離席なし	⑧ 授業中の離席あり
⑨ 授業内の私語に対する教師の指導→口頭注意	⑨ 授業内の私語に対する教師から口頭注意→廊下で立たせる(ほぼ全教科)
⑩ 感心意欲が低い生徒の場合、寝る生徒がいる	⑩ 感心意欲が低い生徒がおらず、寝る生徒がない
⑪ 学習支援員は普通学級に入り、机間巡回しながら、T2の役割を担う。通級教室では、個別の指導を行う。	⑪ 学習支援が必要な生徒は教室に隣接する教室(日本的に言えば相談室規模の大きさ)にて、学習支援員が個別指導。(数学)
⑫ 振り返りシートによる宿題の記入や自己評価の記録	⑫ プランナー(スケジュール帳)に次時までの宿題やポイントなどを記録

\*10 教科によっては専門の助手がおり、スムーズな授業の展開が行われていた。(家庭科「麦」についての勉強)

\*11 学習支援員はほとんど40代以上の女性で約15人程おり、各自割り当てられた教室に5分前のベルが鳴ると、移動していた。

\*11 小学校では、廊下の一部を使って、床に座ったまま(子どもの実態に合わせた指導?)算数を学習支援員が教えていた。

\*12 教科によっては、自己評価(本時の学習内容が「理解できた、ところどころ、理解できなかった」)はICTを使って、ボタン(○→赤 △→黄色 ×→青)1つで教師が把握できるようになっていた。



自治的活動	
日本	英国
① 学級での班活動と学校全体に関わる委員会活動が連動するスタイル。学級によっては一人一役的などところもある。	① 学級というまとまりではなく、ただの30人の集団の塊であり、班活動と委員会活動は存在しない。
② 給食当番や清掃当番制による自治的活動担当グループに分かれて各自で時間内に行う。	② 給食は校内食堂によるbuffestail。講堂では給食のおばさんたちが机の設置や片付けを行い、生徒は食べるのみ。お弁当持参の生徒もいるが、自分が食べたい食品をトレーに乗せ出口で支払う。 また生徒による清掃ではなく、放課後生徒が帰宅後雇われている清掃員による校内清掃が行われるため、お菓子の袋が落ちていることがあった。お菓子の持ち込みは基本許可しているため、お菓子を食べる時は校庭で食べており、食べ残しは鳥が拾って食べている。
③ 生徒会執行員が学校運営を行う自治的活動	② 学校代表者はいるが、男女それぞれ一人ずつ選出される。(今回の訪問では生徒代表挨拶はなかった)
④ 部活動に所属している生徒が放課後、顧問や外部コーチの指導のもと活動を行う。生徒の最終下校は、冬場は6時半。職員はその後に諸事務処理のため、残業があり帰宅時間が遅い。土日祝日に大会等があるため、自分の時間がなく疲労感が途絶えない。	④ 基本、放課後の部活動はなく、クラブ活動は週1回程度の集まりを昼食時間に顧問の部屋にきて行うようであった。(DMSのホームページより) また、外部(月謝制)のクラブに所属する生徒もいるとのこと。(学校職員の部活動顧問はいない) →滞在中は、部活動らしい活動はなく、生徒はスクールバスや保護者の迎えにより、3時40分にはいない。職員も遅くとも5時には帰宅しており、5時まで残業してしまった。という感覚だと言っていた。
⑤ 掲示物:企業から配布されたポスターや学年委員が作成した掲示物が多く、生徒が作成した掲示物は少ない。	⑤ 掲示物:授業で取り組んだものや図書関係については職員と一緒に作成したものが殆ど。公共機関から配布されたポスターや(Aサイズ)学校からのお知らせなどは生徒が通る廊下のガラスケースに覆われている掲示板に生徒がいつでも見られるように掲示してある。

\*所属する学級がないため、荷物は各自で持ちながら自分が選択した授業に移動する。(個人のロッカーはあるが、盗難が不安なため生徒は自分の荷物は基本自分で持ち歩いている)

\*携帯電話の持ちこみは許可されている。但し、随時カバンの中に入れている。

\*各分野で活躍した現地出身の人物の名前をハウス名に命名し、ハウスに所属する生徒の学業成績や諸行事で活躍した場合、ハウスに得点（ポイント）が加算される。通年を通して定期的にホームページにアップされるようである。



ハウスと呼ばれる4つの組み分け掲示

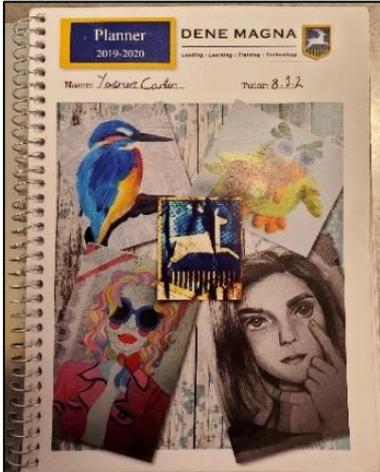
### (3) 次に繋げる

- ・日本の文化や沖縄のことについて知ってもらう目的で、（3年生の）授業で取り組んだ資料を持参し寄付した。
- ・「2019年の今の沖縄」を知ってもらう目的で、火事で焼失した沖縄の文化遺産である首里城や沖縄の各地域について書かれた地元新聞を譲渡した。

## 2. その他

- ・過去のお金(紙幣・コイン)は使用できない。知らずにお店で使おうとしたら没収される。
- ・2018年9月より開校した Gloucestershire College には16歳以上の生徒が在籍。(内訳：DMSの卒業生がほとんど進学している)。日本だと高校(普通科・工業科・商業科・美術科)または、国立工業高等専門学校のような存在で在学期間は2年間。学費はほとんど学生本人もち。先生は、DMSの職員が兼任。
- ・トイレは男女兼用(LGBTに配慮)。但し、職員専用トイレは男女に分かれている。
- ・セラピー犬、ゴールデンレトリバー(トム)2歳の存在。週に3回の出勤。オフの日と帰宅は、校長先生が家で飼っている。
- ・教育相談員は4人いて、ハウスと呼ばれるグループにより担当の職員が決まっている。
- ・SSW的な役割をもつ心の相談員(臨床員)も勤務しており、心に何か問題を抱えている生徒の支援を行っている。
- ・表現力や観察力、洞察力を育てるためのドラマ(演劇)の授業があり、子どもたちは自分たちがくじで引いたお題にそってミニ演劇(スキット)を行っていた。
- ・週に1度、朝集会(全体集会や学年集会)があり、音楽(ミニライブ)や演劇(スキット)などが行われている。
- ・日本でいう「教務」と「生徒指導主任」を兼ね合わせたポジションの職員がおり、昼食時はトランシーバーをもって、校内を巡回したりする。
- ・監視カメラは校舎内外にはない。外からの来客に対しては職員が入口から来客専用のドアを「開閉ボタン」で誘導していた。
- ・DMS自体が、沖縄でいう、「球陽中学校」「開邦中学校」並みのレベルの学校であり、学校方針として、理数系に重きを持たせた学校であったように感じた。

## まとめ



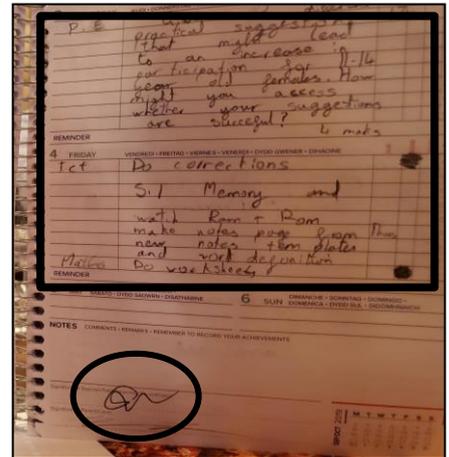
○ 中等教育でありながら、「日本の大学」の様式に近い。生徒は自分  
が取りたい教科を取りつつも必修科目を受講する。教師は授業だけを  
持つ。

○ 日本のように教科書は使わず、一人の教師が生徒に何を教えたいの  
かを年間計画を作りワークシート指導にあたる。また、高等学校にあ  
たる Gloucestershire College も含めて、地域活性化のために大学（実  
際の授業は、普通高校・商業高校・工業高校・美容専門学校・高等専  
門学校のような豊富なコース）と提携した「中高一貫教育」だと感じ  
た。

○ プランナー（左上:表紙 左下□で囲まれている:宿題などの連絡）  
という名のスケジュール帳の活用により、自己管理ができる。親（○

で囲まれている場所）と学校が週に1度連絡を取りあえる。まさに家庭・生徒・学校の三者の連携が効率  
よく取れていたのも、北谷中が昨年から取り入れている「やりとり帳」の運用の仕方にとっても参考となり、  
試験的に自分の学級でも12月から取り入れ、効果を検証する予定で  
ある。

○ このような機会を他教科にも海外研修の一環として取り入れても  
らいたいと感じた。それほど、引率者の私にとっては収穫のある体験  
であった。このような機会を与えてくださった、北谷町教育委員会始  
め、授業交換などで協力くださった職員の皆さんに感謝申し上げます。  
ありがとうございました。これからも体調に気を付けて子どもたちに  
還元できるよう頑張ります。



# 令和元年度 英国派遣帰国報告書

北谷町立 桑江中学校  
教諭 仲松友美

## 1. はじめに

令和元年11月15日(金)～22日(金)の8日間、北谷町英国派遣交流事業に参加させていただきました。イギリス西部にあるディーン・マグナ・スクール(以下、DMSと表記)の職員や生徒たちとの交流や観光を通して、日本では決して知ることができない多くのことを学ぶことができました。派遣期間中、DMSで学んだことや、現地の職員が多忙な中、私たちのために案内してくれた歴史的遺産や名所等を紹介しします。報告を通して、今後の交流派遣事業が北谷町の子どもたちや教師にとって、より実りあるものになることを願います。



## 2. イギリスでの滞在各地、歴史的遺産について

### ① イギリスへ出発・Heathrow 空港

那覇を出発して約15時間、イギリス、ロンドンの Heathrow 空港に到着しました。Heathrow 空港は、イギリス最大の空港で、国際線利用者数は、2013年まで世界一の空港だったそうです。空港の到着口に着くと、アジア系、中東系など、多くの人種で混雑していました。空港には、DMSの職員である Oliver 先生と運転手の Mark が出迎えてくれました。

### ② 滞在先 The Royal Hotel, Ross-on-Wye



Heathrow 空港から車で走ること約2時間半、私たちは、Ross-on-Wye という町に到着しました。DMS から車で約20分のところにあり、スーパーやレストラン、薬局や雑貨屋などが密集している小さな町です。Heathrow 空港周辺とは大きく異なり、煉瓦で建てられている2階建ての建物が連なっていました。私たちが滞在した Royal Hotel, Ross-on-Wye は、玄関から部屋にたどり着くまでに迷路のような構造でした。このような造りは、ここでは珍しくない古くからの建物の特徴だそうです。

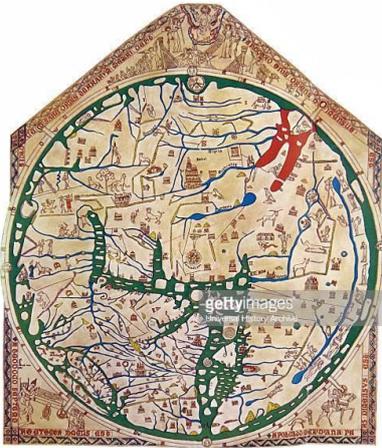
### ③ ヘレフォード大聖堂 (Mappa mundi・chained library)

土曜日に DMS の Harry 先生と事務職員のジャンさんが、私たちを隣町の「ヘレフォード大聖堂」に案内してくださいました。大聖堂は教会で行われるような集会もあるようでしたが、葬式も行われるそうです。建物の中には、いくつもの部屋があり、たくさんの人の墓石を見ることができます。日本で見られる、偉人の像や大仏とは大きく異なり、そこにある人の像のほとんどが仰向けの状態で造られていました。至る所に、人が横たわっている像を見るのは、とても不思議な感じがしました。大聖堂の中にある、歴史的遺産が2つを紹介します。



#### ・ Mappa mundy (マッパ ムンディ)

中世ヨーロッパで制作された世界地図です。その原画が展示されていて、学芸員の方が、丁寧に説明してくださいました。この、人の手で描かれた地図には大きなミスがあり、ヨーロッパとアフリカ大陸の位置が逆になっています。また、その地図上には、イエス・キリストが描かれています。「神様は、世界を見下ろしている（見守っている）」という考えからその絵が描かれているそうです。キリスト教的な歴史観・世界観がその当時の人々に大きく影響を与えていたことが分かります。



#### ・ Chained library (鎖付き図書)

「鎖付き図書」とは、本棚と本が鎖でつながれている図書館のことです。制作された書籍が当時のまま保存されていました。鎖付きである理由は盗難防止のためだそうです。書籍を直接手にすることはできませんが、見学者が入ることが出来る部屋に、そのままの状態で見られるのを見るのは、とても貴重な体験でした。日本や沖縄の高温多湿な気候条件では、このような保存状態を維持しながら、見学者が自由に出入りすることは難しいのではなかと思われました。



#### ④ London 市内観光（remembrance ceremony・大英博物館）



「ビッグベン」は現在  
修復工事中  
2021年工事終了予定



Remembrance ceremony  
（リメンブランス式典）

#### ・ remembrance ceremony（リメンブランス・デー）

1918年11月11日の第一次世界大戦終結を記念して行われる、戦没者追悼式典です。この戦争の犠牲となった戦死者たちを忘れず、またこの大戦が「最後の世界大戦」となることを願って行われる式典です。私たちが来る1週間前は、同じ広場にエリザベス女王も出席し、献花を行っていたそうです。式典の日が近づくと、町の至る所に赤いポピーの花の飾りを見ることができます。その花が追悼の象徴になっているそうです。

#### ・ 国立博物館

国立博物館には、誰もが知っているような絵画をみることができました。ゴッホの「ひまわり」やモネの「睡蓮」などがそうです。驚いたのは、世界的にも有名な絵画を見ることが出来るのにも関わらず、館内に入場料無料であることや、絵画の写真撮影が自由なことです。後で調べて分かったことですが、イギリスでは、国の政策として、博物館・美術館の開放が国民の福利厚生の上につながるという考えを掲げているそうです。「博物館・美術館は上流階級の人たちだけではなく、国民みんなのものであり、すべての人に公開されるべきだ」という考えがあるため、イギリスにある美術館・博物館のほとんどは無料で開放されているそうです。



ゴッホ「ひまわり」も撮影自由

### 3. 学校間交流・授業参観

#### ① ディーン・マグナスchoolの施設

**校舎** 校舎は比較的新しく、職員専用のドアはセキュリティーがかかっており、カードキーのようなものでしか入れない入り口でした。4～5つの棟があり、すべて2階建てです。生徒たちは、毎時間教室を移動し、次の授業が始まる教室の前で、廊下で並んで待っていました。

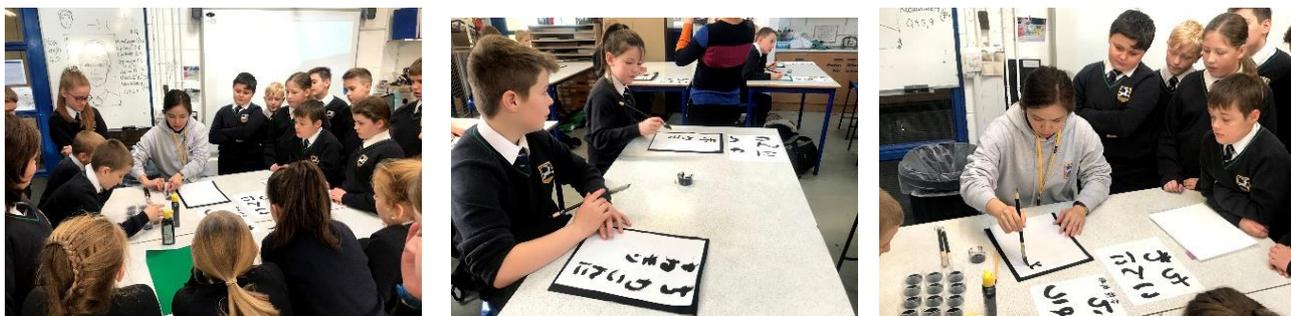
**各教室** 英語教室、外国語教室、数学教室など、教科によって分かれていますので、その授業で使用する掲示物が常に掲示されている環境はうらやましく思いました。例えば、外国語教室では、スペイン語とフランス語の両方の授業が行われるため、教室の左側、右側とで違う言葉の掲示物がきれいに掲示されていました。

**運動施設** 校内には、体育館、運動場、テニスコート、牧草地のような広大な広場がありました。気温が9～10度の寒さでも、体育は外で生徒たちが半そで、ハーフパンツ着用して、授業を受けていました。また、校舎の中には、ジムで見るとような数種類の運動器具もありました。



#### ② DMS での授業参観①

・美術：美術の授業では、習字を通して日本語をいくつか紹介しました。生徒たちに他に知りたい日本語はないか尋ねると、“Hello”や“Good morning”は日本語で何と言うのか、『ポケモン』の言い方やカタカナの文字を知りたいという質問もありました。25名全員の席を周り、一人一人の名前をたずね、カタカナを教えました。日本語や日本に興味を持っている生徒がたくさんいると知り、とても嬉しくなりました。



### ・ドラマ（演劇）

ドラマの授業では、教師が4～5名で作られた各グループにそれぞれ効果音（救急車や人の叫び声）を与え、その構成や演技を考えさせ、発表させていました。発表後は、生徒同士でフィードバックを行い、発表したグループにアドバイスや良い点を互いに言い合うことで「ふりかえり」を行っていました。

### ・スペイン語

スペイン語の授業では、代名詞の使い分けを“You tube”の動画を用いて効果的に導入していました。最後は、生徒たちが自分たちで使い分けのルールを確認し、色ペンを使って、「まとめ」を行っていました。各教科の教室をまわって感じたことは、ほとんどの教室の机が向き合っている造りになっていることです。授業の中で生徒同士による話し合いをさせる場面が多いのだと感じました。

### DMSでの授業参観

- 生徒たちの話を聞く態度やそのルールが徹底されている。発言するときは、必ず手を挙げ、先生の許可を得て、話し始める。寝ている、姿勢が気になる生徒がいない。
- どの授業にも、生徒同士による「対話的な学び」が見られた。教室によっては、向かい合っている机が授業で使用されていた。
- 「めあて」「まとめ」、「ふりかえり」までをどの授業もしっかり行われていた。

### ③ 小学校訪問での出来事

DMS（中学校）でも、生徒たちの話を聞く態度が徹底されていましたが、小学校ではそれ以上に徹底して指導されていた。授業や交流会の様子を撮影しようと許可を得たところ、どの先生からもそれは遠慮して欲しいということでした。イギリスでは、（特に子ども、幼児）の写真を撮影すること自体が厳しいようです。公式な学校訪問とはいえ、現地のルールを知らないことが、異国の相手にとってどれほど失礼、無礼なことになるのかを身をもって思い知らされた瞬間でした。



みんなが荷物をまとめて置くことができるロッカールーム



児童会のみなさんによる学校案内

#### ④ 大学訪問

DMS を卒業した多くの生徒が通う大学も見学させていただきました。今年からの開校だそうです。新しい校舎は、様々な設備が充実しているだけでなく、幅広い教科を学び、技術を習得できます。中でも驚いたのは、ヘアメイクの技術を学べる教室があり、それは無料で受けることができるそうです。また、校舎で文系、理系という別れがなく、文学や物理学、木工など専門的な学科が一つの棟内にあることも日本の大学とは異なる作りの一つでした。

#### ⑤ Gloucester・大聖堂



映画の撮影場所



車いす用リフト  
ガラス張りの配慮

「ハリーポッター」の撮影場所にもなった場所です。外観だけでなく、中に入っても「ハリーポッターの撮影場所である。」を知らせる目立つ看板や目印などなどがほとんど見られなかった。建物自体を大切にしている雰囲気が感じられた。また、大聖堂では、時々、無料でコンサートなどを開催して訪問する人集めを行っているようです。

鏡を置くことで天井の内装をよく見ることができる



当時使用されていた食器  
保存状態がとても良い

## ⑥ Windsor Castle

最終日は、900年以上もの歴史をもつ英国王室最古のお城、ウィンザー城に行くことができました。DMSを出発して、渋滞もあったので、約3時間かかりました。エリザベス女王が週末を過ごす居城と知られているそうです。ここでは、2018年5月に、ヘンリー王子とメーガン妃が結婚式をあげています。2人が実際にパレードで通った道路や式を挙げた教会も見ることができます。城の敷地内を回るのは4時間はかかるそうです。厳かな雰囲気には圧倒されました。



## 4. 1週間の滞在をふりかえって

現地の方々、私たちの訪問を心よく受け入れてくださり、私たち一人一人にとって、有意義な研修になるよう、常に気遣ってくれました。私たちからの様々な質問にも丁寧に答えてくれました。また、首里城の火災についても現地の方々には知っていて、地元でも大きなニュースになっていたそうです。「残念だ。」ということは何度も言っていました。見送りにきた職員は、日本へ出発する最後の日も“respectful”という、敬意を表す言葉で私たちを見送ってくれました。外部からの訪問者に対する「おもてなし」の心や、親切丁寧な対応がとても印象的でした。

## 5. 最後に

今回の英国派遣を通して、人として、教師として、得たものは大きく、様々な人たちとの交流や初めての経験の中で、自分の至らなさやこれから学ぶべきことの多さを痛感しました。このような機会を与えてくださった北谷町（教育委員会）、派遣までの間、様々な面でサポートしてくださった河上さん、嘉陽田さん、派遣期間やその前後支えてくださった桑江中職員、同行引率した北谷中職員、伊佐和香乃先生、そして、温かい笑顔でもてなしてくれたDMSの職員、子どもたちの健康と安全に気を付け、有意義な体験をさせてくれたホストファミリーのみなさんに感謝したいです。



# 英国派遣出発式

1108



ドキドキわくわくの  
英国派遣まであと少し



Let's go to England!

1115



I'm full!



ice skate

1116



1117



LONDON



# DENE MAGNA



1118



everyone is cheeFULL and kind

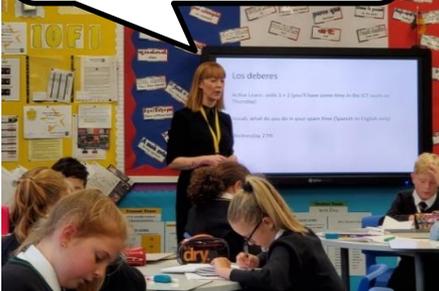


レイチル先生の授業も見れました!

中庭でたくさんのお友達と交流しました

representative.  
1119

# FOREST VIEW





*Expecto patronum* ✨ ✨



Harry Potter



1120



1121



1122



帰国報告会も  
無事終了!



1205



また会いにいくたん!



町長と同じ便で帰国!

# ICHIKA & CHARLOTTE COTTERELL FAMILY



# Masato & Jack Markey Family



# Mizuki & Daisy Whitson Family



# Hiroki & Isabel Suehr Family



# Yui & Sarah Tyler Family



# Miyuu & Martha Hampson Family



# YU & VICKI HARVEY FAMILY



# Syunsuke & Isabel Suehr Family



# 2019年度 北谷町中学生英語スピーチ・ カンバセーションコンテストの様子



This year's topic is...  
Chatan town!



H30に派遣された  
生徒たちの発表♪

永田龍斗さんの  
プレゼンテーション

審査結果待ち...  
ドキドキ



おめでとうございます☆

It is important that you  
never give up on anything  
and always do your best!



# 2019年度 英国訪問団受入の様子



0629

Welcome!!  
to CHATAN



町長



教育長



0701



うちな一家



インディアンオーク号



首里城  
1日も早い復興を願って...

0702



ENJOY!



美ら海水族館



北谷中

0703



桑江中



0704



第二小



0705



ちーたん  
大人気!



また会えるの楽しみにしてるたん♡



0707